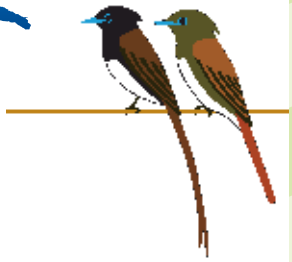
静岡県立静岡がんセンター
地域医療連携だより

VOL.16

2026年
10月

やまびこ



ごあいさつ



静岡県立静岡がんセンター
副院長　高橋　利明

秋涼の候、地域の医療機関の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は当センターの診療および地域連携に格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

副院長の高橋利明と申します。臨床では呼吸器内科を担当し、副院長としては企業治験や臨床研究の推進を担当しております。

近年のがん薬物療法の進歩は目覚ましく、治療成績は飛躍的に向上しています。この進歩をさらに加速させるため、当センターでは、臓器別の各診療科、2024年4月に開設された抗がん薬の早期臨床開発を専門とする「新規治療開発科」、更にはがんゲノム医療中核拠点病院としての機能を牽引する「ゲノム医療推進部」とが緊密に連携しております。これにより、ゲノム情報を活用した個別化治療を実践するとともに、数多くの企業治験や臨床研究に参加し、新たな薬剤開発にも積極的に取り組んでおります。

薬物療法の治療成績向上の一方で、治療の長期化に伴う副作用対策の重要性が高まっていることから、当センターでは2026年4月に「支持医療科」を開設いたしました。皮膚障害、リンパ浮腫、食欲不振や体重減少などを中心に専門外来や多職種でのセルフケア支援を行っております。地域の先生方のもとで治療を継続されているがん患者さんであっても、治療を完遂し日常生活の質を維持できるよう、一緒に支えていきたいと考えております。

今後も勉強会や地域連携交流会などを通じて、皆様との緊密な連携を一層深めてまいりたいと考えております。当センターでは、地域の先生方がよりご紹介しやすい環境づくりに病院一丸となって取り組んでおります。「このような病状でも受け入れてもらえるか」と躊躇されるような場合でも、まずはお気軽に地域医療連携室までご一報ください。先生方の大切な患者さんへ最善のがん医療をお届けできるよう誠心誠意対応いたします。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。





もくじ CONTENTS

副院長挨拶…… P1
診療科紹介(呼吸器内科)…… P2
R8 交流会開催報告 …… P3
地域医療連携室よりお知らせ…… P4
編集後記…… P4

診療科紹介

静岡がんセンター呼吸器内科では、専門的な診断・治療はもちろん、治験や臨床試験への取り組み、治療に伴う副作用へのきめ細かな対応、さらに呼吸器外科や放射線治療科、病理診断科などとの連携を通じて、患者さんを多方面から支える診療を実践しています。

今回は、呼吸器内科が大切にしている診療の考え方や、患者さんにより良い医療を届けるための取り組みについて、科部長よりご紹介します。

呼吸器内科

呼吸器内科　部長　**釼持　広知**

当科では、肺がんをはじめとする胸部腫瘍の診断・薬物療法に精通した専門医が診療を担当し、患者さん一人ひとりの病状、年齢、合併症、生活背景、ご希望などを踏まえた最適な治療の提供に努めています。近年、肺がん治療は大きく進歩しており、がんの組織型や遺伝子異常、PD-L1などのバイオマーカーを調べ、その結果に応じて治療薬を選択する「個別化医療」が重要となっています。当院では、適切な遺伝子検査や病理診断を行い、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、抗がん薬などを適切に組み合わせ、最新のエビデンスに基づいた治療を提供しています。



二列目左から：内藤医師、齋藤医師、和久田医師、片岡医師、小野医師、村上医師、高橋副院長、高医師、釼持科部長、診療科秘書２名
一列目左から：松村医師、川口医師、久代医師、平岩医師、後藤医師、診療科秘書１名、CRC（看護師）

また、標準治療の提供にとどまらず、さらなる治療成績の向上と新たな治療法の確立を目指し、国内外で開発中の新規薬剤を用いた治験や、多施設共同臨床試験にも積極的に参加しています。標準治療が限られる患者さんや、既存治療では十分な効果が期待しにくい患者さんに対しても、治験や臨床試験を含めた治療の可能性を幅広く検討できることが、当科の大きな特徴です。

治療効果を最大限に引き出しながら、患者さんが安心して治療を継続できるよう、副作用に対する支持療法にも力を入れています。薬剤の特性や患者さんの状況に応じて、医師、看護師、薬剤師をはじめとする多職種が緊密に連携し、症状の早期発見と適切な対応に努めています。免疫チェックポイント阻害薬や分子標的治療薬などに伴う新たな副作用についても、常に最新の知見を取り入れ、必要に応じて各領域の専門診療科と連携しながら、迅速な対応を行っています。

さらに、呼吸器外科、放射線治療科、病理診断科などとの診療科横断的な連携体制を整え、診断から治療まで一貫した診療を実践しています。手術、放射線治療、薬物療法を組み合わせる集学的治療についても、多職種カンファレンスで十分に検討し、それぞれの患者さんに最も適した治療方針を提案します。早期から進行期まで、また診断が難しい症例や治療方針に迷う症例にも対応していますので、呼吸器腫瘍が疑われる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当科へご紹介いただけますと幸いです。

2026年度　静岡がん医療地域連携交流会　開催報告

2026年7月1日（水）、沼津市のプラサヴェルデにて「静岡県がん医療地域連携交流会」を開催いたしました。医師会・歯科医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション協議会をはじめ、行政・病院・診療所・訪問看護ステーションなど、110施設・201名の地域医療関係者の皆さまにご参加いただきました。当センターの参加者を含めると、総勢336名となり、盛大な交流会となりました。

プログラム

講演19:00–19:45

演題１　**あたらしい高齢者医療のとりくみ**
～診療科横断スクリーニングによる高齢がん患者支援と地域連携型多職種介入モデルの構築～

支持医療科 部長 兼 呼吸器内科 医長 内藤 立暁
初診・入院支援室　看護師長　福﨑　真実

演題２　**胃の内視鏡治療の最前線**

内視鏡科（上部消化管）　部長　川田　登

演題３　**膵がん・胆道がんセンター開設のお知らせ**

消化器内科（胆膵）　部長　石渡　裕俊

懇親会 19:45–21:00



第1部では医師・看護師らによる講演を行い、第2部の懇親会では地域の医療関係者の皆さまと親睦を深めました。

直接顔を合わせて交流することで、日頃の感謝をお伝えするとともに、地域とのつながりを深める貴重な機会となりました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。来年度も皆さまとお会いできますことを楽しみにしております。

講演と交流を通じて、地域の皆さまとのつながりをあらためて感じる一日となりました。


開会挨拶　上坂総長


懇親会挨拶　小野病院長


乾杯　坪佐副院長


閉会挨拶　寺島特任参与

地域医療連携室よりお知らせ

NEWS 研修情報

1）2026年度臨床腫瘍学コース

臨床腫瘍学コース

毎月、臨床腫瘍学コースを開催し地域の医療従事者の方々にも公開しています。

会場：静岡がんセンター　管理棟４階　研修室１

◇詳細は静岡がんセンター総務課企画人材班　TEL：055-989-5222(代)までお問合せください。

日　時	テーマ	講師（敬称略）
10月30日（金） 17：30～19：00	がん薬物療法中の副作用マネジメントについて	静岡県立静岡がんセンター 化学療法センター長　濵内　諭
11月13日（金） 16：00～17：30	最新の食道外科治療と研究（仮）	静岡県立静岡がんセンター 食道外科　副部長　　眞柳　修平

2）2026年度臨床研究研修会

静岡　臨床研究研修会

臨床研究に携わる医師・歯科医師、研究支援者を対象とした研修会を開催しています。

◇詳細は臨床研究支援センター臨床研究管理・調整室　TEL：055-989-5222(代)までお問い合わせください。

日　時	テーマ	講師（敬称略）
11月６日（金） 17：30～19：00	最新の肺がん外科治療と 医療ヘルスケア領域における ウェアラブル端末の利活用（仮）	静岡県立静岡がんセンター 呼吸器外科 医長　　勝又　信哉
11月12日（木） 17：30～19：00	臨床研究の出口戦略と実用化への道筋（仮）	国立研究開発法人国立成育医療 研究センター 臨床研究センター長　松山　琴音

静岡がんセンターでは次の公式・公認アカウントで情報発信をしております。
最新情報はSNSで！公式アカウントをぜひフォローしてください。

静岡がんセンター公式・公認SNSフォロワー募集中！

▲Youtube　▲Instagram　▲Instagram(看護部)

編集後記



今夏も記録的な酷暑が続き、暑さの次は秋の長雨や局地的な大雨、それに伴う災害のニュースが世間を騒がせています。異常気象が「毎年のこと」になりつつある今、日頃からの備えや周囲との助け合いの大切さを改めて痛感いたします。

７月１日の静岡県がん医療地域連携交流会では、「時間が足りないと思うくらい充実した時間でした」との嬉しいお言葉もいただき、今回の交流会が皆様にとって有意義なひと時となったことを大変嬉しく感じております。今回の交流会で生まれたご縁や新たな気づきを大切に、今後もみなさまとの交流を深めながら地域医療のよりよい発展につなげていければと思います。

発　行　静岡県立静岡がんセンター　患者家族支援センター　地域医療連携室
〒411-8777　駿東郡長泉町下長窪 1007　TEL：055-989-5222(代)
発行責任者　地域医療連携室　副室長　小林　考江